



北米利幹書翰

永泰五月寫

洋学文庫  
文庫 8  
C 446



○西美理駕大合衆大統領姓斐漢名美執達

日本國

癸丑年九月於  
浦賀港所至  
北亦利拜書翰

大君主殿下平在大尊大敬良友乎今特派本國師船大巨水師提

督波理望領一船兵船帶公書到

貴國境專呈

殿下御覽矣茲面諭淡水師提督轉告朕心久欲與

貴國通和之真意請

殿下深思今按我兩國藉興和友之結好並互通商之章程今令欽

差波理來

貴國為辨此二事故達

君主殿前吾台衆同規定例嚴禁各官掃管別國之政體故此用諭淡  
欽差在貴地之時行勞勳貴處人民今令衆國廣大東西邊疆各極



於海在西界正對向日本國若遇火輪船離加理科亦亞省或由  
呵理于群駛過太平洋海十八晝夜能到

貴國之口岸也合衆國之一省各計加理科亦亞之大邦土產多每年  
出黃金僅四千萬兩之多同白銀水銀寶石等物日本亦然富澤多  
產室物其人財曉多藝故此兩鄰國互相往來必得大益朕亦為  
此要開商意矣茲知悉日本國之古例只准中國可備國船能  
通商除此二國之外不准別船進埠祇因世間之情萬國之政  
漸多有改更古例易新且

貴國初立古例之時並無理駕即名新地地由歐羅巴人離本處入住此  
山家地耕種在彼長久人民為少且貧近今民至繁華貿易  
年年成倍而各處量  
朕下不悉能改古例以准我西國人賣買則各伴得大益矣如若

君主只准古例禁止別國入埠是照依國法不妨先試數年或十年

十年之間能知有利否或因賣買無益然後仍復古例可也夫  
本國與別國立約亦足數年之尾若因兩國不願再立新約  
且我兩國各試暫開港口嗣後可知何樣也又諭派欽差普陳  
殿前每年本國船離加理科亦亞駛往中國者竟乘御有獵鯨  
魚船多有常近

貴境此等各船或遭颶風擊碎在海邊雖船身破人貨兩  
全朕慮此等之斷命者因思

貴國之民見此等入船量心安撫恩待仁慈而物皆保留俟有春  
國船到即帶歸也且憐本國之民亦是五倫之內豈  
君主不知乎若不及此論則不快人心矣且聞  
貴國多產煤炭食物繁多故諭派欽差西告本國火輪船渡洋

海之中國者計燒煤炭數萬石其船不能多載在途不敷足  
用無從接濟而回本國又不便所以各船要入

貴國港口買煤炭食物接濟并取水之便如買物或將銀錢或以各貨  
兌之可也

君主議指南境一港口能使本國各船暫泊而得買此須物兼於

允准免朕遠望而快心也今諭派欽差波理坐領一節兵船越

貴國來江各京代為拜見速朕敬思我西國漁友意則貿易

俾本國船能我須食煤炭等物兼保憐苦楚人民除此等  
事務之外所餘差別無他意再船內裝有數件本國巧藝

君主收納弗覽昇物知朕思友真敬之記願

全能真神保

君主受萬福感聖顧我

知此公書是實者本國大司南及書名各件皆為證

正美理駕大合眾國京在華盛頓西國紀年之一千八百五十二年

十月十三日即壬子年十月初六日封

大學生依斐列奉勅書

國

年







初と下此書は是の事なるを大正皇も各事も  
押とらん人し控持と然されよ  
皇史記大合衆西地都の事終頓と事此の事西洋の  
元年一子なる事子子二月十日を以て其の事年有知  
方より知る

大君子依此列知と清しと  
書と

大正六月九日  
浦賀港所呈  
北洋利新書翁

同添翰

大正理駕大合衆國大統領世變文漢各美速達

日本國

大君主殿下幸安今朕一心全賴本國師船水師提督彼理是

見藏端正才能之巨故特派勅賜之欽差全權代

大合衆國來

貴境而同

大君主所派全權之二臣等齊議定意鈐印兩國和睦

通商航船進港且有條約章程及各緊要事務均

屬該全權等彼此辦理嗣後該欽差彼理刻其候

奉朕與公會大臣議定允肯批准

亞美理駕大合衆京在華盛頓西國元年一千八百九十

二年十月十三日是本國立改三十七年即壬子年十



月初六日書卷畫押鈐印為證

大學士依斐列奉勅書

御硃筆

國璽

正月二日

○亞美利加國欽差大臣與管水國師船天竺中國日本

等海軍水師提督大臣彼理為申陳事切本欽差現奉  
本國大統領欽差全權便宜行事生領一節所船來日本國  
境呈求

大皇帝殿下請議兩國和睦之條約奉  
本欽差勅書此二書現已鈔寫英字喃字漢字

等書錄呈

御覽惟此二書之正稿理合固封候召見之日呈

大皇帝御閱並特奉面諭轉告

吾君主豐恩於

陛下慰和之意故因

吾君主之聞合衆之民自心要致

貴地或被狂風漂至海邊該民等被貴處官民  
見之如此敬啟

吾君主心甚憂慮今指數年前有二船名叫嗎喇進

嶺喇味哇吐等入海漂到海邊皆受許多委曲等由不  
欽差奉諭面陳

殿下並請

俞允定約嗣後遇有合眾國人船漂至海邊或被狂風吹進

港只得以仇敵待之且有

貴國之船或遇風壞柳漂流本國口岸者亦多資財回籍

况西國於本國官民都知人倫耶蘇之道皆可保庇壞

人之者此等之事亦求

鑑察且本國與歐羅巴各國無結連之盟而本國律例各

官不皆管本民之教何況他國之政乎先三百餘年

歐羅巴初到

貴地之時住本山歐羅巴迄今大邦在日本歐羅巴之中東

西連海歐羅巴人早住在東如今民生滿地流沿至西邊

正對日本如坐火輪船太平洋海十八日或二十日能抵

貴境現在天下貿易年年繁盛而

貴國海口船亦甚多倘若

貴處官民不把合眾之民當仇敵者

吾君主要與

大皇帝兩國立定和約况貴國初設律例禁西洋船進港口

之時是智政明戒今我兩國隣近預先往來甚易現今時

世不同不能依智政照古例之戒本欽差思念

陛下不覺知現在之大概情形頃此誠意正定和約則國免  
起糾端故先生願曰小邦未近

貴京而達知其和意本國尚有數號大師船特命駛來未到

日明

陛下允准知若不和來年大船兵船必要駛來現望  
大皇帝議定各條約之後別無緊要事務大師船亦不來

且有

吾君主和理之公書候

指定何日而呈

御覽明鑑

大皇帝九五至尊福壽無疆須至陳告者

癸丑年六月初二日

五月廿七日

○亞美理駕天合衆國欽差大臣英世官本國師船現留泊日本

海水師提督彼理為中陳事奉本國

大統領欽命全權使臣行奉議和立約要同

貴國欽命一大臣高議定於何日何時來京面見

大皇帝將

本國立公書及勅書之正稿二件謹呈

御覽候飭一大臣早定日期可以互相議明肅此敬候崇

癸丑年六月初七日

同正  
六月八日

敬啟者今送來公書一封內許多重大緊要之事乃  
連及



落し之船等も亦あつた如く ココロカク 尚ほ面呈し望まぬ所命  
諒に當らざる事歎かすに余は併後之を承けし事と向て定元  
月成りぬるに十分は落したる身より月比と終るまで  
此と連れし江戸海一歩大く近寄るは法なるべし  
全く技同多し船来と云て而も其を承久に能く  
辨る事よしと云て是より百枚に能く出さる事よしと云

此れは在りて其年其の如く是れ也

右國の兵備江名ハ蘇士其郡と云は海軍を其是也  
初八日

根又和解  
北亞墨利加未翰和解

北亞墨利加合衆國の伯理密天治ミルニトコロニ

公書と日本國皇帝陛下ニ

予今北亞提督ヲテウレリ故に以書と爲す是は北亞ハ合衆  
國の海軍第一等ニ時して大次敵なり此地は航路なる一隊軍  
艦の停泊之處に水師提督レリ小令して予に敵なり  
是等五枚の敵艦ヲテ拒め其初の艦と合むると云ふ  
とレ先又此今次レリと日本ニ書きて此に當てり此  
唯我が家國と日本との貿易に阻害し且交易を止るべからず  
若くは其れと云ふ事小其の合衆國に其律及ハ法律  
國より日冬桐氏人禁戒と云レ北亞之民に教法を施す





然るに是を容忍しんとす其相國より其夫人を以て統ぶる  
以て公衆の中法相製造局の概を名に是を以て以て之  
実前此の激哀を哀せらるるは之の物に於て皇天陛下  
の御子解と重くしことと其書し一平して其に左衆國  
の右平をを印し且自名姓と若くは其の元を其年  
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年  
トシ初に於て也

これラドニレモラレ親年

伯理爾天徳の命と文ケ

外國事務官ニトワレトシテ其業

○ 公衆國伯理爾天徳別議和解

此並聖利が公衆玉の伯理爾天徳ニレラントニレラレ書と  
日本國帝陛下ニレラ

公衆玉此所託留マラウベリ、又人々を其海軍國密力能  
と聖滅一被覆して全権の終齊らし、公衆玉此所託留  
して其玉の自當權安の位に在る人々一交若くは教文に其  
預言と文、且一次若くは教文の旨日と爲して其玉の此所託留  
易就海軍及代其玉の民人々切安ら、法伴の和協と其  
て是を其記、其子名姓と記去と、しむ其公衆玉此所託留  
公衆玉此所託留、伯理爾天徳の先准と記し、所あり  
其子名姓の其子伴と記し、其公衆玉の御信と記し、  
其子名姓



子以五年二年に北亞基利が右家本移三建玉に其七年  
年一若月三ノ 此の年一 フレントに乃に於て

伯理基天徳の命を奉りて

伯理基天徳の命を奉りて

○合衆國水師提督ト書ハ解

日本國帝一ト書

外亞ペリヲ以テ東印及マ那リ本海ニ泊ルルハ亞基利が  
衆國の云勢と統帥と有者あるニ之方本を命を奉りて  
必事をして以テ之を據ル 便宜ニ奉りて事と行ふ  
之權と傳へて口は此改定と奉りと深らふに事と行ふ

合衆國伯理基天徳此書讀中ニ詳ニ載ル右書讀  
及外亞ペリノ以テ先全權此位と有此と書ハ其  
利和業ヲ即レ又ニ後得ル係と是と是に伯理基天  
徳トト書ル本出及改定ノ本と奉り公玉帝陛下  
之事ある爵位ニ應じて洞云と有此而ト親自徴知  
於此下領ノ交收ノ日記と有告示せん事と書文  
此書本告と有命と有伯理基天徳ハ日本ノ事  
有是の意思と抱ける本右衆玉の七人傳是の報  
貴玉の代りト有 然能知ト有是は此の海と有  
ハ其是是に治遇と有 此の如く有ハ其事と有  
痛ハ其事ト有是是年其是年其是利の如  
ニ七ト有是は此の如く有是年其是利の如



月々ハ東國此れ交る事昔口に比されしむるもくは迷  
あるまれば以旧制と固ち去んと欲するも是は智と海は  
自ら交りしとて人へこらざるあり

外長ニ奉りて航と條一も取こく日本此航延ぶる國の民  
身副と致すと防くの必要として而美友也の海  
港ニ奉りて好まんとと日本一海開きとあると軍  
艦船又未夕は海は島島とを系号航し是と防の系  
と願する也の情と表とあると四小船とを英國と書り  
明とありしと作と一して尚船と増か一再び航し  
日本一と然るとして日本も帝陛下の御延れとて系  
と奉り奉ると防たは信理爾家天徳と書りて或とあると

此和の業を採りてあらしむと但しこ去りの平らに也は  
在りたると防て系号可し自洋志と一し

日本も帝陛下の御延れとて系号可し自洋志と一し

東印度又那日本海ニとも合衆國海軍此航所

ニテウウセ、ペリリ 魏軍

其公孝三二年七月七日を以て 日本の近海に合衆國の艦  
船ニガト船にエスケル十船中ニ在り

○(合衆國水師提督以上書り解二通)

合衆國海軍提督某艦船と防て之を全権ありしと  
受應の書り書讀及通信書讀と存んと欲し此二艦

ある家世の仕立も天竺より日本に傳下し是を所あり  
右の令名に近く一日と辨ひし是と辨定しん事と致す

合衆玉並丸コレカット船レユケハレナ 船子八百五十二年五月七

月吉日 船名 浦安港に於て書す

(予日本に政堂一先物を名一書しん事くり大切ある問題  
と致とる事とのえ是と辨決せん為ふ此船のとあり  
と一とある也と此船子あり予ゆり)と致考しん事  
早先予後江ノ海に小舟しん事此船の報着と法  
とんとしん事此船子あり予ゆり)と致考しん事  
其と保つと致船と致人にとりしん事あり

東印度支那海及日本海に現存する左家國の令海  
軍艦船マツラウペリ右家玉並丸コレカット船レユ  
スケハレナ 船子あり予ゆり)と致考しん事  
其と保つと致船と致人にとりしん事あり

武源堂所藏

戊辰爰物語

罪惡夢物語

冬夜夜の文はまゝ小人はも微子やへ履を舞ひ  
御るまゝ妻と云ひく風の音はくいと相違まゝおぼ

斗は紙文小眠りも如くは獨机より宛をかけた

書どよみさう夜はくやめれはつしと目も

此物も終る夜をれく幻となく恍惚たるおぼあま

振れはも夜をなまぬ新は是は碩学臨儒とおぼ

さへおぼ千人集居し是の物語しつらるる

其日中の人をいふに近き事あり  
イタリヤ國のミウツカ云云既なく船と紅印一日本漂流人  
七人と云々江に迫き海は紅と云々是と録し交易と  
船をー和蘭院が云々之れ抄多リスと云々  
何れも其の人の言らるるイタリヤと云々和蘭院の  
小島多島云々和蘭院の王都云々云々云々海  
三千里と云々も満り吹凡の所云々衣位も船通  
用いぬれ云々云々の大三日昇程も云々由云々

西云々人教の自教公かし想指しと云々七百七拾万  
云々今云々人教捷法事と知法と云々佛志氏好く  
文字を知云々教と研究し云々と海産云々民と云々  
國以法くすと云々務と云々仕云々と云々海産海産瑞雲  
く思冠入云々云々海産云々云々大乱の所云々南云々  
云々既云々と云々民干云々と免れ云々王都云々  
云々云々海産の所云々街坊云々麗人云々稠密云々人  
凡百云々云々云々海産の所云々云々云々  
諸云々交易と云々法國、航海紅毛と云々用云々人云々



廣西子歲交易の及ぶ郡と盛子歳凡五大例中  
比野子振に歳は身諸世の者大是を也と其に  
由る法支那も前より交易は身廣東の例に比  
下を振り高館と宮み右に總督兼法政人其年一五年  
く南海洪島系アウカの産物と身教子禮子積花廣  
東に輸送する一ちラ茶と交易は右と其に送るもの  
も其年各々いよりスハ雲南暹羅邊子此分不きし  
支那の屬子界と接へる身遠氏大擾乱は身と  
三五年間争擾我は身の時と其に其支那のいよりス

の交易盛子歳は身自然各自己の意欲するは其は  
色に説言と挿入種に派傍は身元今ホト見和蘭院に  
清朝革命の次大却もきして廣く地面と場り其子  
其親愛と文は身右流と信一其いより  
スも其は身交易は身其方と其既子乾隆年中の事  
は身而は身増多く其成交易は身其の批出は  
係は身國と其色に許依り身其其廣東交易は身  
方と其物に説きし其道且いよりスも其其外流  
の身一其其其支那交易は身其其右欠之













通商仕行方も依りては市場に於ては彼も我も皆等  
の利益を得んべしと云ふは又然る所無き事  
諸國通商の國の初めに日本は開港場を設けしを以て一方  
の利益を得しむるも一方は大害を及ぼすべく他日彼も我も  
を以て争ひしむるも亦一方の利益を得しむるも亦一方の大  
交りキリた人我を成りては幸の附る所ありては諸國通商  
若西亞諸國通商の事皆等しく扱はるべき一原の理  
其の交易を以ては十分にしては定むる實詳細之言  
上は在るべき所なりと云ふの事實なる所を以て詳  
しき事せんべしと云ふは張官を以ては是なりと云ふは

國家の最大幸なるべしと云ふは彼も我も皆等  
の利益を得んべしと云ふは又然る所無き事  
諸國通商の國の初めに日本は開港場を設けしを以て一方  
の利益を得しむるも一方は大害を及ぼすべく他日彼も我も  
を以て争ひしむるも亦一方の利益を得しむるも亦一方の大  
交りキリた人我を成りては幸の附る所ありては諸國通商  
若西亞諸國通商の事皆等しく扱はるべき一原の理  
其の交易を以ては十分にしては定むる實詳細之言  
上は在るべき所なりと云ふの事實なる所を以て詳  
しき事せんべしと云ふは張官を以ては是なりと云ふは



